

安全も健康も 『自分のためにみんなの為に』

拓南製鐵・拓南商事・協力企業合同安全衛生大会



比嘉恵一朗氏のリードで指差し唱和

今年度の課題としては、増加傾向にあるヒヤリハットについてどのように対策を

行っている。今年度の安全重点取り組みは「ゼロ災害365日達成に向けた安全意識を高める仕組み作りの職場環境を構築する」を基本方針に、「ゼロ災害365日」をスローガンに掲げている。

重点項目は、社長バトロールやゼロ災害バトロールの実施、ヒヤリハット・キガカリ

の吸い上げ強化、指差し呼称の徹底、わが社に多い捻挫対策などだ。今年度の災害発生状況は現在、3件(不休業)だ。一方、2024年度の定期健康診断の有所見率は86・4%で横ばい状態が続いているが、県平均(70・8%)よりまだまだ高い。

今年度の衛生重点取り組みは、産業医の力も借りて前年度の取り組みを継続し、インボディの活用など健康経営の取り組みも続けていく。健康経営では、「月いちの構内清掃」「禁煙プロジェクト」「健康料理セミナー」などの新しい取り組みも行って

いる」

意識を高める仕組み作り(製鐵)

拓南製鐵の安全衛生活動概要は、安全衛生統括責任者の親富祖茂部長が報告した。「2024年度の災害発生件数は、前年度比5件増の13件(休業1件・不休業12件)だった。そこで、捻挫対策、挟まれ対策、熱中症対策などを講じた。

拓南商事の安全衛生活動概要は、安全衛生委員会の與那嶺吏矩氏が報告した。「2024年度は、物損事故が前年度比10件減の15件だった。作業別では『運搬』が6件で一番多く、各班の手順の見直しが課題となった。『荷下ろし』は前年度8件だったのが1件で、大きく減少した。労働災害の発生件数は4件(ぎっくり腰1件、熱中症2件、アンモニア冷媒による目の刺激1件)で、前年度比4件減少した。今年度は現在、腰痛症、ぎっくり腰、目に異物混入など4件、発生している。対策として、ぎっくり腰には腰痛セミナーを実施した。熱中症については各部署の発表を参照してほしい。目の予防では、シールド付ヘルメットへの変更などを行っている。

古波津会長は、「安全は何のためにあるのかを会場に

問いかけた。そして、「万が一のことを想定した皆さんの心構えが大切」と安全に対する高い意識の維持を訴えた。また、「社長の安全に関する権限は、安全管理責任者に委託されている。安全管理責任者の声は社長の声だと思っ、しっかりと聞いてほしい。その姿勢が、ゼロ災害1000日につながっていく」と述べて、拓南商事、拓南製鐵の安全衛生活動概要の報告に移った。

続いて、拓南商事、拓南製鐵の安全衛生活動概要の報告に移った。

また、今年度、「オフィスでやさしい」を導入した。諸セミナー、フットサルなど運動による交流会等の衛生活動を推進し、3月に認定された「ネクストフットボール1000」に続き、『5000』を目指したい」

機能の順で高かった。

また、今年度、「オフィスでやさしい」を導入した。諸セミナー、フットサルなど運動による交流会等の衛生活動を推進し、3月に認定された「ネクストフットボール1000」に続き、『5000』を目指したい」

機能の順で高かった。



きむたかホールで開催

大会はまず、拓南商事の平田要副社長がステージに立ち、「有意義な大会にしよう」と会場に呼びかけ、社訓を唱和を行った。続いて、拓南商事の川上哲史社長が開会のあいさつをした。

拓南製鐵・拓南商事・協力企業合同の第28回安全衛生大会が8月20日、きむたかホールで開かれた。各社役員、拓伸会会員企業役員など約400人が参加した。古波津会長は訓辞の中で、「万が一のことを想定した皆さんの心構えが大切」と安全に対する高い意識の維持を強調した。10部署(チーム)が、それぞれの熱中症対策など、安全衛生活動の取り組みを発表した。



INDEX

3 拓南製作所の安全衛生大会

4 TOPICS

拓南製作所でSIMデッキ開所式/拓伸会階層別管理職研修スタート/新人社員ビジネスマナー研修/県法人会連合会キャンペーンで奮闘/第3回・第4回合同社員研修旅行で青森・北海道へ/本社に初の産業医 etc.

8 連載「拓南余話」②

【赤茜】首里出身の新聞記者で俳人の石野朝季が、晩夏の西空に広がる夕焼けの美しさを「あかなあ」と表現した

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖縄県那覇市豊川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内「たくしんNEWS」編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

ゼロ災に向け10部署が報告

《1頁より》

大会は、10部署による安全衛生活動に移った。

各部署とも、持ち時間の中で、ゼロ災の状況、ヒヤリハット対策、安全衛生活動の重点事例、事故発生例と対策、作業前KYミーティング活動、危険対応訓練などについて発表した。その中で、各部署のポイントと思われるものは下記の通り。

○拓南商事製造本部(発表者・中村明史氏)

2024年度の労働災害は6件で、前年度比4件減少した。熱中症対策では、家電班・非鉄選別班で屋根材の遮

熱塗装、アルミ選別班でベルチェベスト導入を講じた。安全対策も、家電班の冷蔵庫フロアホースの長さ適正化、堅型SD班の梯子の転落防止策、工務部の溶接光対策などを行った。

○拓南商事営業本部(比嘉恵一朗氏)

2024年度のヒヤリハットの提出件数は264件で、3年連続増加した。内容分析すると「運転時」「作業時」が多く、対策を講じた。熱中症対策では、購買現場に休憩スペースを設けた。ガス切断場の熱中症対策も行った。購買班は、ローテーション

ンで1人ずつ休憩できる仕組みをつくった。

○拓南製鐵製造部庄延班志慶間優也氏

「安全意識を高める」をテーマに、KY活動、安全基本行動に沿った訓練、ヒヤリハットの吸い上げに取り組んだ。安全基本行動に沿った訓練では、安全スイッチの状態確認およびその有効範囲確認を行った。安全スイッチの有効範囲マップを各安全スイッチへ表示するなどした。

○拓南製鐵製造部製鋼班(棚原大樹氏)

「安全意識を高める」をテーマに、作業前KYミーティング、ヒヤリハット・熱中症件数の吸い上げ、暑さ・熱中症対策などを講じている。新人に、サンダーの使用法やスリッパの確認、火花の向きを確認してもらったなどの安全基本行動訓練なども行った。

○拓南製鐵製造部石灰工場(松田智喜氏)

「安全意識を高める」をテーマに、作業前KYミーティング、ヒヤリハット・熱中症件数の吸い上げ、暑さ・熱中症対策などを講じている。新人に、サンダーの使用法やスリッパの確認、火花の向きを確認してもらったなどの安全基本行動訓練なども行った。

危険意識を高める行動として、指差し呼称実施チェック表の活用、石灰工場安全の手引きに基づいた具体的な訓練、工具室や廃棄物置き場の整理整頓維持、工場予備品の一カ所保管、バキュームリフター使用による腰の負担軽減、熱中症対策、作業手順書の有効活用などに取り組んだ。

○鉄鋼処理産業(知念敏彦氏)・泉産業(徳永博文氏)

「鉄鋼処理産業」構内ルールの遵守徹底、行動反映でリスクの低減をスローガンに、「前倒し」で進められる作業の効率化、「作業上の指示・申し送り」をしっかりと行い、必要情報の共有化、「7年間熱中症ゼロの今年度維持」などを重点事項に取り組んでいる。

○泉産業(安全意識を高める行動・取り組みとして、慣れや経験によって生じる油断の対策、熱中症対策、指差し呼称の徹底などを講じている。「安全な行動を続けること」と「安全意識の底上げ」「危険に気づける力」を心がけ、ゼロ災の職場を目指している。

○拓南製鐵製造部・営業管理部(金城大氏)

「営業管理部」安全意識を高める行動として、作業前KYミーティング、熱中症急処置訓練、シャッター開閉の訓練、ヒヤリハット年間目標300件などに取り組んでいる。今年度のヒヤリハット件数は現在(7月)、150件で、前年同月比143件増となっている。

○営業部(安全訓練を毎月実施し、作業員一人一人がゼロ災活動に努めている。また、昨年度から、拓南商事、鉄鋼

処理産業とともに毎月テーマを決めて安全訓練(避難訓練、消火訓練など)を実施している。昨年度、テールゲートで重大ヒヤリハットが発生し、その対策の訓練も行った。

○拓南製鐵技術部(比嘉章雄氏)

安全衛生計画書に基づく安全意識強化訓練、対象を広げる指差し呼称訓練、ヒヤリ・キガカリ対応状況で対策率のチェック、定位置化やラミネート加工などクレーンの

10部署の発表後、血圧と腰痛の健康講話が行われた。まず、「血圧についてもつと知ろう」をテーマに、知花敬子氏(協会会長)・保健師が講師を務めた。知花氏は「血圧を測る習慣をつけよう」「塩分を控えめにし、カリウムの多い食生活を」と強調した。

次に、「腰痛・転倒予防」をテーマに、玉城和弥氏(株式会社ボウゴ・理学療法士)が講師を務めた。玉城氏は、強い持ち上げ姿勢(胸張り)とブリッジ(尻を突き出す)などを指導した。

その後、拓南製鐵の知念正元副社長が大会講評を行った。「今回の各発表で、熱中症、ゼロ災関連が印象にとっても残った。ヒヤリハットに関係して感じたことが非常に多かった。ヒヤリハットの裏には危険が潜んでいる。ヒヤリハットを吸い上げて物理的対策、人的対策を講じないと、危険度が倍になる。大きな災害に

ヒヤリハット抽出は重要

つながりかねない。安全を確保するために、ヒヤリハットの抽出はとても重要なのだ。

ヒヤリハットを出さないとは危険な状態がどんなに累積されていって大きな災害が起ころうとすることを皆さんであらためて認識し、ヒヤリハットの大切さを共有してほしい」

続いて、拓南製鐵の山内昌博専務が大会宣言を行った。「自分のため、みんなのための健康・安全第一」を日常作業に取り入れ、安全基本行動の遵守を実行できる職場環境を構築する。また、健康経営を推進するなか、いつまでも動ける環境整備を積極的に推進し「目標であるゼロ災1000日達成に向け、自分のため、みんなのためのゼロ災推進活動を実施していくことをここに宣言する」

そして、拓南商事の比嘉恵一朗氏のリードにより、参加者全員で、年間目標「安全は働くみんなのできるもの」とス

点検用看板の更新、充電式電動ファン・簡易アセント・クーラベストなどによる熱中症対策などに取り組んできた。

○拓南製鐵加工センター(松本浩氏)

リラックスできる職場環境の改善、休憩回数の見直しなどによる熱中症対策、安全作業における活動(危険物表示の追加設置や転落防止対策などによる改善)、反転装置・リフター装置油漏れ時の対応やクレーン暴走時の対

応、緊急事態時の対応訓練、熱中症への対応など講じてきた。また、1年に1度、石灰試験室で薬品での漏洩や被曝、ガス漏れなどの緊急事態に備えて対応訓練を行っている。

安全活動として、部内勉強会での安全教育、現場でのヒヤリ・キガカリの状況確認、緊急事態時の対応訓練、熱中症への対応など講じてきた。また、1年に1度、石灰試験室で薬品での漏洩や被曝、ガス漏れなどの緊急事態に備えて対応訓練を行っている。

閉会のあいさつは、拓南製鐵の八木実社長が行った。「4月に安全パトロールを実施した際、各部署の安全意識が高く、熱中症対策も万全だと思った。しかし、8月に熱中症の社員が一人出た。きめ細かい意識を持つ日頃の対策を行わなければならない」とつくろった。そのためには、体調不良を遠慮なく本人が言えるようにすること、そして、周りの仲間の声かけや処置が大切になる。つまり、安全も健康も「自分のためにみんなのために」「社訓の一部」なのだ。今回の大会を新しい出発点にして、ゼロ災1000日を目指していこう」

司会は、拓南商事の山下航平氏が務めた。

点検用看板の更新、充電式電動ファン・簡易アセント・クーラベストなどによる熱中症対策などに取り組んできた。

○拓南製鐵品質管理室(我謝佑太氏)

安全活動として、部内勉強会での安全教育、現場でのヒヤリ・キガカリの状況確認、緊急事態時の対応訓練、熱中症への対応など講じてきた。また、1年に1度、石灰試験室で薬品での漏洩や被曝、ガス漏れなどの緊急事態に備えて対応訓練を行っている。



健康経営推進委員会



玉城和弥講師



知花敬子講師

ローガン」達成しようゼロ災1000日ヨシ」の指差し唱和を行った。

閉会のあいさつは、拓南製鐵の八木実社長が行った。「4月に安全パトロールを実施した際、各部署の安全意識が高く、熱中症対策も万全だと思った。しかし、8月に熱中症の社員が一人出た。きめ細かい意識を持つ日頃の対策を行わなければならない」とつくろった。そのためには、体調不良を遠慮なく本人が言えるようにすること、そして、周りの仲間の声かけや処置が大切になる。つまり、安全も健康も「自分のためにみんなのために」「社訓の一部」なのだ。今回の大会を新しい出発点にして、ゼロ災1000日を目指していこう」

司会は、拓南商事の山下航平氏が務めた。

点検用看板の更新、充電式電動ファン・簡易アセント・クーラベストなどによる熱中症対策などに取り組んできた。

○拓南製鐵品質管理室(我謝佑太氏)

安全活動として、部内勉強会での安全教育、現場でのヒヤリ・キガカリの状況確認、緊急事態時の対応訓練、熱中症への対応など講じてきた。また、1年に1度、石灰試験室で薬品での漏洩や被曝、ガス漏れなどの緊急事態に備えて対応訓練を行っている。



安全は働くみんなでつくるもの 働くみんなで守るもの

第41回安全衛生大会 拓南製作所

拓南製作所は第41回安全衛生大会を8月7日、吉の浦会館で開いた。全社員(協力企業含む)と拓伸会会員企業幹部約2000人が出席した。奥平勉社長はあいさつの中で「起きてしまった災害を風化させてはならない。一人一人が他人事ではなく自分事ととらえることによって、職場全体の安全意識は向上する」と強調した。

大会は、労働災害で亡くなった方々へご冥福を祈る黙とうで始まった。

開会のあいさつを勢理客耕司専務が行い、「すべての仕事は、安全という土台の上にしっかりと乗っていないといけない。この大会で得たものを今後の安全衛生活動に役立ててほしい」と強調した。続いて、古波津昇会長が訓辞をし、猛暑による暑熱が体に負担をかけている例などを挙げ、熱中症の予防は、事



奥平社長



古波津会長

「当社では、残念ながら、以前と同じような災害が発生している。ぜひ、過去の事例を振り返り、対策について有効性を評価し、改善し、さらなる対策を講じることによって進化させていきたい。そうすれば、より安全に近づく

ものと確信している。今大会では、集中して参加してほしい。災害ゼロに向けて共に一歩ずつ歩んでいこう」

24年度の災害は3件 健康経営では「1000」認定

安全管理者・西原誠次長による安全衛生活動実績報告に移った。

西原次長は、「拓伸会統一の安全基本行動カードを全員に配布・携帯させ、制定から約3年かけ安全基本行動が浸透しつつある」と述べた上で、安全活動について次のように発表した。

「2023年度はゼロ災害を達成したが、24年度は休業災害1件、不労災害2件の計3件、発生させてしまった。今年度の安全重点項目は、指差し呼称の実践、ヒヤリハットキガカリの吸い上げだ。熱中症対策では、今年度から、従来の対策に加えて線材工場に排気用送風機10台設置などを講じた」

3事業所が事例報告 熱中症対策で講話も

大会は、事故事例・体験報告に移った。

3事業所の発表者が報告した。

大会は、事故事例・体験報告の中から、雨天時における建設中の現場で感電が発生した事例、第一工場内での作業中にH鋼を作業台から落下させた事例の計2件を報告した。そして、今後も継続してヒヤリハットを吸い上げ、安全衛生委員会と内容と



安全衛生講話のヒトコマ

鉄構事業所鐵構部鐵構課
班長・城間亮亮氏

状況を確認し、部長・役員など各段階での確認と意見を重ねた上で、再発防止策を講じていくと述べた。

○防錆事業所製造部製造課
班長・宮城泰雅氏

宮城氏は、防錆事業所の製品ヤードで発生した鉄骨柱の検査時に発生した事故報告、熱中症対策の取り組みについて発表した。事故については、発生原因について拓南本社安全統括室の助言を受け、再発防止のために事故現場の検証、従業員へのフオリクリフトと製品検査の再教育を実施したと述べた。熱中症対策については、義務化に伴う5つの取り組みを紹介した。

○棒鋼線材事業所線材部線材課課員・国古真琴氏

防錆事業所製造部製造課
班長・宮城泰雅氏

国古氏は、工場内の熱対策の取り組みを発表した。各作業場における送風機やスポットクーラーの設置、空調服の利用、こまめな休憩などこれまででの対策を紹介した上で、新しい取り組みである排気装置(工場内空気を毎時20回入替)の導入を報告した。工場全体の室内温度が4度

標語金賞 平良一夫氏(安全) 城間聡氏(衛生)に輝く

大会は、25年度安全衛生標語の表彰に移った。

「安全標語」の金賞は、平良一夫氏の「危険だと思った貴方が直ぐ対処 あなたの行動が職場を守る」に輝いた。(銀賞・東功一朗氏、銅賞・盛根康彦氏、奨励賞・久高将親氏)

一方、「衛生標語」の金賞は、城間聡氏の「溜めないで心のストレスと体脂肪すすんで健診 得る安心」が受賞した。(銀賞・川満義貴氏、銅賞・喜友名千加子氏、奨励賞・比嘉博世氏)

その後、棒鋼線材事業所線材部の川平良幸次長が大会宣言を行い、「年間標語『安全は働くみんなでつくるもの 働くみんなで守るもの』を合言葉に、一致団結して災害ゼロの明るい職場づくりをまい進することを誓う」と宣言した。

続いて、管理部管理課の知念直成課長(衛生管理者)をリーダーに、全参加者で指差し唱和が行われた。



棒鋼線材事業所線材部線材課課員・国古真琴氏

下がり、風の通りをつくったことで涼しい環境を整えることができた、と述べた。

3事業所の報告後、安全衛生講話が行われた。講師は、ハートライフ病院クリティカルケア認定看護師看護師長・兼本愛美氏らが務めた。写真参照。

新「県産品」に地元紙も注目 SIMデッキ開所式

拓南製作所

7月



起動セレモニー。記者の皆さんがシャッターチャンスを狙う

拓南製作所は造管加工工場(8番工場)内に、床構造材であるSIMデッキの製造ラインを新設した。開所式と直会式を7月22日に行った。SIMデッキとは、1方向鉄筋トラス付きデッキ(型枠)のことで、SIMは、住商・伊藤忠・丸紅の略称。開所式には地元紙も取材に訪れ、工期短縮、人手不足の解消、高品質化を図れる新「県産品」として、経済面で大きく取り上げた。

SIMデッキは、伊藤忠丸紅住商テクノスチールが供給する鋼板に那覇鋼材で製造したトラス筋を拓南製作所が製造する吊材と呼ばれる鉄線加工品で一体化するように溶接組立を行い、商品として完成させる。

7月30日付「沖縄タイムス」は「工期早まる床構造材製造」「型枠不足にも対応」という見出しを付け、記事で「(商品)はデッキ工事と鉄筋工事を同時に進められるの

新工法を提案していろいろ

開所式は、普天間宮の與那嶺神職によって厳かに執り行われた。

伊藤忠丸紅住商テクノス

一方、同日付「琉球新報」は「型枠と鉄筋同時施工」「拓南が製造、作業効率化へ」という見出しを付け、記事で「建設現場での人手不足が問題化する中、この資材の活用で現地の型枠組みや解体、鉄筋工事などに関する作業を50%以上削減できるとしている」「(商品)は主に床や天井に適用している。構造が縦に伸びるビルよりも、横幅が広い倉庫や工場、体育館、学校、病院などの建設に活用できるといふ」と紹介した。

チールの田中康博社長、拓南製作所の古波津会長、奥平勉社長、宮國正幸常務、那覇鋼材の上原勉社長が玉串奉奠を行った。その後、起動セレモニー(左写真参照)に移った。

直会式では冒頭、各社代表あいさつが行われた。田中社



(右)「琉球新報」7月30日付

(下)「沖縄タイムス」7月30日付



階層別管理職研修スタート

次長以上を対象に「上級編」 拓伸会

6月



與那嶺神職による開所式

長がまず、5年前にスタートしたこのプロジェクトを振

り返り「皆がウィンウィンなるように持っていきたい」と抱負を述べた。

同時に開発していきたい」と抱負を述べた。

最後に、上原社長が「人手不足による省力化は時代がますます求めている。それにふさわしい商品を皆さんと

所が製造し、販売は、伊藤忠丸紅住商テクノスチールが担当する。



「階層別管理職研修」の開催について

拓南本社 執行役員総合企画部長 上原康志

拓伸会は6月16、17日、初の階層別管理職研修を拓南製鐵本社2階大会議室で実施した。テーマは「変化に対応したマネジメントスキルで自社を担う人材育成」。今回は「上級編」で、ミドルマネジメントの役割と心得、チームマネジメント、ビジネスモデルなどについてグループワークも交えて学んだ。拓伸会会員企業から執行役員・部長・次長の計34人が参加した(今回は県外の参加はなし)。研修を企画・実施した拓南本社の上原康志総合企画部長に「開催について」、統括課の島袋緑課長代理に「上級編研修の所感」を、そして、各社の参加者から1人ずつ「感想」を寄稿してもらった。(敬称略)

6月16、17日の2日間、拓南製鐵本社2階大会議室にて、執行役員、部長および次長を対象にして「階層別研修上級編を開催いたしました。講師には、HRD labo OKINAWA日経教育グループの桑原和永専務をお招きしました。

ができました。非常に良い刺激となり、今後さらに成長していかなければという意欲が湧いてきました。

ご多忙の中ご参加いただいた皆さまも、真剣に集中して研修に取り組んでおり、その姿勢がとても印象的でした。

また、5年前からあったものの私の力不足で実現に至っていませんでした。しかし、昨年の組織改編で総合企画部統括課が発足し、教育を充実さ

せていくこととなり、そして今回、鳥袋緑課長代理の尽力のおかげでついに開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。引き続き、社員一人ひとり

「上級編」研修の所感

拓南本社 統括課長代理 鳥袋 緑

本研修では、拓南グループ各社からの参加者が、ミドルマネジメントの本質を学ぶ中で情報交換を行い、おのの立場を通じて役割を理解しようと努めていました。部下育成については、相互理解や信頼における「関係性の質の向上」が重要であることの再確認をしている方々が多く見受けられました。

の成長を支える取り組みを推進してまいります。今後の研修や教育施策の充実に向けて、皆さまからのご意見・ご感想をいただけますと幸いです。



した。

また、参加者から「これまでこんな研修がなかった」「グループの同じ立場の人の意見が聞けてよかった」などの声があり、交流と学びを求める管理職が多いのが印象に残っています。さらに見学にいらしていた役員からは、このような会社間の垣根を越えた研修について「社員の交流が図れる。もっとやってほしい」との声がありました。そして、講師の桑原氏からは「拓南さんの力はすごい。研修に参加する姿勢がものすごくいい」とお褒めの言葉をいただきました。桑原氏は、沖縄県経営者協会のかりゆし塾で接触した参加者も多く、とても好評でした。「分かりやすい」「理解しやすい点が多かった」との感想もあり、次回開催予定の課長・主任クラスの階層別研修も大いに期待できます。



□参加者の感想 自分の強味に気づく

拓南本社 業務部長 川勝かおり

今回の階層別管理職研修を通じて、ミドルマネジメント(部長・次長)の役割と心得について学び、改めて認識する貴重な機会となりました。自身の業務の中にも意識し取り組むべき点が多く、非常に有意義でした。また、グループワークを通じて、関連各社の管理職と意見交換ができたことは視野を広げる良い機会となりました。

研修のワークの中で、自らの3つの資産(生産性資産・活力資産・変身資産)をそれぞれ書き出し、意見交換をしました。そして、私の「資産と強味」をグループを代表して発表することになりました。その内容は「私は拓南製鐵

心理的安全性のある職場づくり

拓南製鐵 環境室室長 入田 勉

今回の研修を通し、部署長として、経営層の考えを部署のメンバーに伝えること、また、メンバーとの親密なコミュニケーション(相談しやすい、心理的安全性のある職場づくり)が大切であることを再認識しました。

9セルフフレームワークによるビジネスモデルの考察と現場の橋渡し役として、自身が果たすべき役割の重要性や、チームを成果の出せる集団へと導くための考え方を学び、大変有意義な機会となりました。

部門や会社の垣根を越えて

拓南商事 執行役員営業部長 名嘉貞治

また、管理にとどまらず、自ら学び、変革を推進する姿勢が求められることを強く感じました。今回の学びを、今後の業務や人材育成に生かしていきたいと思っています。

グループ各社のメンバーが一堂に会し、部門や会社の垣根を越えてコミュニケーションを深める貴重な場にもなり、たいへんうれしく思いました。

とても充実した内容であり、多くの気づきと学びが得られるセミナーでした。ぜひ今後、他の皆さんにも参加をおすすめしたいと思います。

大切なローワーマネジメント

拓南製作所 営業部長 渡嘉敷幸真

今回のセミナーを通して、ローワーマネジメントが勉強になりました。部下に対する配慮やコミュニケーション、責

任感のあるモチベーションを維持するための支援について理解できました。働きやすい環境にも気を配り、気軽に相談に乗れる雰囲気をつくることの大切さが分かりました。

ビジネスモデルについて、いろいろな戦略があり、顧客満足を提供し、利益を生み出す仕組みを学び、自分のプロセスに生かしていきたいと思いました。

「関係の質の向上」が大切

西原グリーンセンター 支配人 山内雅文

この研修を通じて、ミドルマネジメントの本質はメンバー間の相互理解、相互信頼を深めることから開始し、「関係の質の向上」が大切であると再確認しました。

ビジネスモデルの理解と構築では、多様化するビジネスモデルの事例を通じて学ぶことができ、9セルフフレームワークを用いて分析することで利益を生み出すビジネスモデルを学習しました。





拓伸会のあゆみ、ビジネスマナーを学ぶ 新入社員「ビジネスマナー研修」

「創業者を知り自社理解につなげる」「ビジネスマナーの基礎を身につける」を目的に拓南本社総合企画部は7月25日、拓伸会新入社員ビジネスマナー研修を拓南製鐵2階会議室で行った。新入社員研修は今年で4回目。県内会員企業が今年度入社した新入社員計17人(拓南本社1人、拓南製鐵4人、拓南商事9人、拓南製作所3人)が参加した。

久しぶりに同期たちと

研修会では初めに、ライフリテラシーボードゲームでグループワークを行った。人生に必要な知識や情報として税金や年金など社会制度の仕組みを疑似体験してもらった。

参加者の感想(参加報告書)より一部は次の通り。「同期と楽しくみながら、社会人として知っておかなければならないさまざまなことを学ぶことができたので良かったです」

創業者の偉大さに驚き

今回の研修では、創業者の人生をはじめグループ各社の成り立ちや変遷、理念などを理解してもらったために、動画視聴を含めて解説も行った。

グループのあゆみや背景を知ること、創業者の偉大さを実感できれば拓伸会の一員として働けることに誇りが持て、仕事への意欲につながると期待した。

参加者たちはほぼ全員、創業者に対する深い感銘を感じた。参加者の感想(一部)は次の通り。

「創業者の生い立ちなど、聞いたことがない話題ばかりで、引き込まれて話を聞いて。自分の会社がどのようになっているか、大きくなっているのか分からなかった。次は、これを周りの友だちにも聞かせてみたい」

「創業者である古波津清昇についても詳しく知ることができて、とてもいい機会だと思いました。拓南商事が那覇につくられたことに驚いた」

楽しみながら知識を深めることができた」

「久しぶりに同期で集まることができ、情報を交換したり、近況を報告でき、とても有意義な研修だと感じました。ライフリテラシーボードゲームで、社会保険などのことは多少知識がついてきていると再認識することができ、住宅ローンに控除や減税があることを知らなかったので勉強になりました」

学んだことを忘れまい

そして、ビジネスマナー研修では、学生と社会人としての違いを改めて自覚させ、講義形式やグループワーク、ロールプレイなど実践的な演習を組み合わせたプログラムでビジネスマナーの基礎を学ぶようにサポートした。コミュニケーションの基

本となるあいさつ、報告、連絡相談の仕方、名刺交換・電話応対、敬語の使い方、業務で生かせるマナーやスキルについて指導した。

さらに、正しいラジオ体操の仕方や先輩社員の声(6年目社員の感想やエール)を聞いてもらい、近い将来の自分の姿をイメージする上で参考にしてもらった。

最後は、入社以降にどれだけ拓南グループについて知ったか、簡単なクイズを出して確認し合った。

参加者の感想(一部)は次の通り。「特に、自分は営業として社外の人と話すこともたくさん増えてくるので、あいさつや名刺交換、敬語などを意識していく必要があると感じ



今年も集合 合同でBBQ

拓南本社と西原グリーンセンターは8月16日、健康経営の一環として、合同ビーチパーティーBBQをキラキラビーチ(西原町)で楽しんだ。昨年に続いて2度目の開催。

パーティーは、6月に本社の役員となり、健康経営推進委員会委員長を務める長嶺巧専務の開催あいさつ、古波津昇会長の乾杯で始まった。

社員の家族の参加もあり、総勢60人で安全に楽しく、快適に過ごした。

長嶺専務は「この催しの目的は、健康経営推進の取り組みの一つで、社員間のコミュニケーションを促進して職場の活性化を図ること、グループ会社間の連携強化です。このような催しを通して、みんなの交流が深まり、職場の活性化につながるこ

く、笑声も会社のイメージアップにつながることを知ることができた」

意欲的な姿勢に感心

今回の新入社員ビジネスマナー研修は、総合企画部の上原康志部長、島袋緑課長代理が担当し、金城実莉主任、又吉史也部長がアシスタントを務めた。

研修を終えて、島袋課長代理は次のように振り返った。「参加した新入社員たちは、ビジネスマナーが当事者だけでなく会社のイメージにもつながることを理解してくれて、名刺交換にせよ敬語にせよ、現場で自身が使うことを想定して練習していた。そんな意欲的な姿勢に感心した」

ビジネスマナー研修は実践的で役立つ内容であり、基

礎知識やスキルの習得は新入社員が成長する手助けになると考える。吸収率の高い時期に教育の時間を提供することは、新入社員の不安要素を払拭するばかりでなく、百年企業を目指す拓伸会にとっても戦力育成の一助になるのではないかと考える。

今回の研修で、新入社員たちが、同期の仲間と集まる機会を求めているのも分かった。統括課としては、教育を通して新入社員がコミュニケーションを図れるよう、関係各所と情報交換しながら目的別研修も検討し、成長策を模索(企画)していきたい」



今年も集合 合同でBBQ

拓南本社と西原グリーンセンター

拓南本社と西原グリーンセンターは8月16日、健康経営の一環として、合同ビーチパーティーBBQをキラキラビーチ(西原町)で楽しんだ。昨年に続いて2度目の開催。

パーティーは、6月に本社の役員となり、健康経営推進委員会委員長を務める長嶺巧専務の開催あいさつ、古波津昇会長の乾杯で始まった。



拓南本社A、100チーム中8位 田場氏が個人ランキング2位に 県法人会連合会ウォーキングキャンペーン

拓南本社は、古波津昇会長が副会長を務める沖縄県法人会連合会主催の「ウォーキングキャンペーン」(6月1〜30日)に参加した。このキャンペーンは、30日間に及ぶウォーキングを通して、参加する社員の健康づくり、子どもたちへの食事の寄付(1日8000歩あたりごはん茶碗1杯分)を目的としている。拓南本社からは7チーム(計48人)が参加した。



Aチームメンバー。(左から)新垣博史事務、又吉史也氏、与那嶺瑠利氏、喜屋武智業務部長、長濱直次安全統括室長

約21万杯分が子どもたちに

本社の皆さんや身近な人に応援していただき、個人で100万歩踏破できました。キャンペーンの取り組みで、約21万杯分のごはんが子

楽しみながら取り組んだ

健康促進活動として実施されたウォーキング大会にチームで参加し、日々の声かけや励まし合いを通じて、自然とコミュニケーションも深まり、楽しみながら取り組むことができました。また、活動を通じて子ども



表彰式会場。(左から)古波津昇会長、田場寛理氏、安里美樹子システム管理課長

その結果、チーム部門(県内100チーム参加)で、「拓南本社8000歩Aチーム」が拓南本社で最高位の8位と健闘した。メンバー全員が目標の1日8000歩をクリアし、1日平均は1万2041歩だった。

個人ランキング(計670人参加)は、システム管理部の田場寛理氏が2位(1日平均歩数:3万3526歩)に輝いた。

個人ランキング2位の田場氏、Aチームトップ成績の与那嶺瑠利氏に感想をコメントしてもらった。(敬称略)

システム管理部 田場寛理

子どもたちに寄付されることごとでもうれしい。これから、健康づくりの運動を続けていきます。(個人ランキング2位)

人事部 与那嶺瑠利

たちへ寄付も行うことができ、ささやかながら社会貢献にもつながることができたと感じております。今後も心身の健康を意識しながら適度な運動を続けていきたいと思えます。(Aチームトップ成績)



佐喜眞氏を招いて講習会 ラジオ体操第1・第2 拓南本社

拓南本社は7月15日、安全祈願の日に併せ、かんば生命那覇支社の佐喜眞靖氏を招いて第1および第2体操の講習会を実施した。拓伸会は、会員企業各社でラジオ体操を毎朝行っており、昨年、かんば生命保険社長、NHK会長、NPO全国ラジオ体操連盟会長の3者連名による「ラジオ体操の積極的実践企業」として表彰されている。そこで、参加者・担当者に寄稿してもらった。(敬称略)

正しいフォームの大切さ

このたび、拓南本社では、指導員の佐喜眞靖さんにお越いただき、ラジオ体操第1・第2の正しい体操の仕方を学びました。

毎朝何気なく行っているラジオ体操ですが、ポイントを意識すると普段は使っていない筋肉に効いているように、改めて正しいフォームの大切さを実感しました。

総企画画部統括課主任 金城実莉
明るく清々しい気持ちで1日をスタートするためにも、ラジオ体操はとても大切な習慣だと思います。これからも学びます。

継続していくことが重要

健康経営を開始して、拓南本社では何度かラジオ体操講習会を行いました。その際に、一つ一つの動作



前列のTシャツ姿が佐喜眞氏、後列中央が金城氏、右が田名氏



「とを期待します」とコメントした。
また、実行委員の中野片音さん(拓南本社業務部雇用管理課)「写真参照」は、「今年には実行委員に任命されたので、無事に開催できるか当日まで期待と不安でいっぱいでしたが、準備や設営などを、実行委員7人とお手伝いいただいた方々みんなでも協力し合いました。天候にも恵まれて、けが人も出さず、大盛況のうちに無事終了いたしました。実行委員として、本イベントに携わることができて本当に良かったです。みんな最高です」とコメントした。

拓南本社においては、数回の講習会の後、社員の間でラジオ体操の話題が何度か上がることもあり、ラジオ体操に対する意識が変わってきたと感じています。ラジオ体操、指導会とも、今後も継続していくことが重要だと思います。

多彩な体験で青森の魅力を実感

今回の青森研修旅行では、ねぶた祭りの迫力ある展示やけししの絵付け体験が印象的でした。

三味線の生演奏や千本鳥居の美しい景色にも感動しました。十和田湖の遊覧船では自



人生初の北海道を皆で仲良く

北海道旅行に参加させていただき、ありがとうございました。

人生初の北海道で楽しみにしていたのですが、知らない部署の方々と同じ部屋で宿泊し、過ごすことに不安もありました。

しかし、皆さん温かく優しい方々で、夜のロプウェイや観覧車と一緒に乗りに行

また、普段なかなかお会いする機会のないグループ会社の方々と一緒にできて良かったです。

この度は貴重な体験をありがとうございました。

北海道旅行に参加させていただき、ありがとうございました。

同じ会社、グループ会社でもなかなか会えない方々、会話をしたことない部署の方々とコミュニケーションが取れて意外な一面も見られとても楽しかったです。

同業他社の清水鋼鐵様の視察や、エスコンフィールド、ノーザンホースパーク、



小樽運河、白い恋人パークの見学、美味しい食事など非常に充実した日程で、楽しく過ごすことができ、本当に感動しました。ありがとうございました。

次の旅行に向けて、日々頑張ります。

長濱室長が拓伸会をハワイで紹介

日系コミュニティの集会で

拓南本社安全統括室長の長濱直次氏が4月、プライベートでハワイを訪れた際、リクエストに応じて講演し、拓伸会の実績を紹介した。そこで、参加者の反応、旅の感想などについて寄稿してもらった。

創業者の書籍で未来につなぐ

拓南本社安全統括室長 長濱直次

4月中旬にハワイを訪ねた。ハワイ在住の大学の先輩に誘われて家内との旅行であった。先輩から、「せっかくハワイに来るのだから『がじまる会』のゲストスピーカーとして何か話をして」との要望をいただいた。

「がじまる会」は日系コミュニティの一つで、50年以上の歴史があるグループだ。

スピーチでは、「沖縄 鉄筋製造業71年の歴史と現在」のテーマに、拓伸会(拓南グループ)全8社の紹介を行った。

スピーチ後、「沖縄に、拓南グループのような大きなプロジェクトがあったとは知らなかった」「戦争スクラップからの再生は素晴らしいことだ、これからも活躍を続けてほしい」等の感想があった。

また、1988年にホノルル市で開催され、創業者も参加された「那覇の遺産と観光展」をスライドで説明した際、旅行社に当時勤めていたというご婦人から「私が対応しました」とのうれしいお声掛けをいただき、創業者の活躍を実感した。

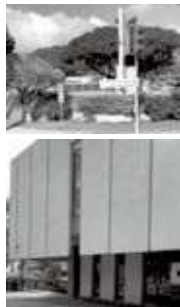
古波津昇会長から預かったお土産「梅コロ」も、会場の皆さんにとっても珍しがられて喜ばれた。

「がじまる会」の終了後、先輩の案内で、世界中から学生が集う「ハワイ大学」に行き、同大学の沖縄研究センター、ハミルトン図書館を見学した。同図書館は沖縄県以外で最大級の琉球・沖縄関係書籍を蔵書しているとの説明を受けた。その後、沖縄県系移民125周年の記念式典が催される「ハワイ沖縄センター」等を訪れた。

帰国後、古波津会長に報告し、大学図書館、沖縄センター等に、「拓伸会70周年記念誌」と創業者の著書『わが青春を語る』を拓南本社から贈呈した。

後日、図書館から、「寛大な寄付により、沖縄以外で最大級のコレクションである所蔵量が増えています」と英文で感謝の返信があった。

今回、ハワイで多くの方々と交流が持てたこと、拓伸会の足跡に気づけたこと、拓南本社から書籍を贈呈できたことは有意義であったと感じた。特に書籍についてはハワイで多くの方に閲覧していただき、未来に向けて、拓伸会の「理念」「実績」「活動」の理解をつなげていただければと祈念している。



(上)スピーチを行った「がじまる会」の集会場YMCAホノルル マアヌプラザ
(下)訪問したハワイ大学マノア校 ハミルトン図書館

拓南本社に初の産業医

比嘉麻乃氏 選任



拓南本社は従業員数が50人を超えたことから、労働安全衛生法に基づく産業医の選任義務が発生し、7月1日付で比嘉麻乃氏を産業医に選任しました。そこで、自己紹介のコメントをお願いしました。「初めまして。このたび産業医を担当させていただくことになりました。医学部卒業後は耳鼻咽喉科医として勤務してまいりましたが、自身の働き方を見直す中で産業医に関心をもち、資格を取得しました。まだまだ学ぶことばかりですが、これまでの経験を生かしながら、拓南本社の皆さまの健康保持・増進に少しでも貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします」

拓南余話 ②



国民学校入学時

戦後80年の節目を迎え、編集委員会から余話の番外編として戦争体験記を書くように依頼された。しかし、TVや新聞で毎日報じられている地上戦において、肉親が目の前で死んでいく生き地獄を味わった方や、創業者のように南部の激戦地で地上戦が終結したことを知らずガマ(洞穴)で滴り落ちる雫を飲みながら半年余も生きながらえたことなど見聞するに、私の体験は凄惨さにおいて比較になら

ず、書くのをためらってしまっ。とはいえ、戦前戦後を生きてきた者として、自叙伝的に書くことで戦争がいかに長期に広範囲に影響を与えたかを知ってもらえればという思いで書くことにした。

父に届いた赤紙

黒島 善茂

た。父は仕事を求め、台湾の高雄市で生活の基盤を築いていた。その頃のお産は自宅で産婆(助産師)が1人で赤子を取り上げていた。それゆえ、母は産後の諸々のことを考え、兄をつれて祖母のいる石垣へ帰った。ようやく歩きができた頃、再び

招集前夜、父が同僚と酒を飲み、遅く帰ってきた。その時初めて父の酔った姿を見た。その後、母は家政婦の仕事へ出掛けるようになり、兄は国民学校に通っていた。必然的に1歳になる妹の面倒を見ることになったが、時にはいくらかあやし

でも泣き止まず、一緒に泣いてしまうこともあった。6歳になり、憧れの国民学校へ入学した。教科は国民科(国語・修身)、理科、算数科(音楽・習字・図工)で、国語は五十音のカタカナから教わった。2カ月が過ぎた頃から音楽や図工の時間が修身の時間に変わった。修身授業の前に「教育勅諭(前段のみ)」を暗唱させられた。

「皇民化教育」ということだろう。いまだに前段の文言を誦んじることができ登校するときも、ランドセルの外に防空頭巾や名札にも血液型と住所を明記するようになった。夏休みに入るや、学校は閉鎖疎開することになった。(拓伸会 元名誉会長)

海岸沿い・緑地帯を清掃 総出で美化活動

拓南製作所



拓南製作所は7月5日、会社前の海岸沿い、砂浜や緑地帯でゴミ拾い、草刈りを実施した。安全管理者の西原誠次氏は、次のように報告してくれた。「社長、役員、協力企業の方々が総出で美化活動(海岸清掃)を実施しました。晴れ間が広がった中、汗をかきながら40分ほど、多くの漂着物・ゴミ、草など約50袋分を回収しました。村民の方々が気持ちよくウオーキングなどができる環境となりました」

後編

ま長たすれ波審くを立かん後
さ二す津大す担せせ
しなと事うう上てち
た6に清事とこ人けみ
るなとりさいと材た
る真のりさいと材た
る参照をんの思
そ感持をんの思
んをををををを
なをををををを
言きききききき
葉めし働やす
をきていやす
思はて思こと
い人れいい
出をまきき
し成し忘古き業で